

事例番号:360088

原因分析報告書要約版

産科医療補償制度
原因分析委員会第四部会

1. 事例の概要

1) 妊産婦等に関する情報

初産婦

2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 39 週 0 日

7:10 頃 自宅で臍帯脱出感あり

8:29- 臍帯脱出のため入院

超音波断層法で胎児心拍 1 拍/約 10 秒を認める

4) 分娩経過

妊娠 39 週 0 日

8:39 臍帯脱出のため帝王切開により児娩出

5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:39 週 0 日

(2) 出生時体重:2400g 台

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 7.23、BE -7.9mmol/L

(4) Apgar スコア:生後 1 分 0 点、生後 5 分 0 点

(5) 新生児蘇生:人工呼吸(バッグ・マスク、チューブ・バッグ)、気管挿管、胸骨圧迫、アドレカリン注射液投与

(6) 診断等:

出生当日 重症新生児仮死

(7) 頭部画像所見:

生後 7 日 頭部 MRI で低酸素性虚血性脳症の所見

6) 診療体制等に関する情報

(1) 施設区分: 病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師: 産科医 3 名、小児科医 3 名、麻酔科医 2 名、研修医 1 名

看護スタッフ: 助産師 6 名、看護師 3 名

2. 脳性麻痺発症の原因

(1) 脳性麻痺発症の原因は、臍帯脱出による胎児低酸素・酸血症によって低酸素性虚血性脳症を発症したことであると考ええる。

(2) 臍帯脱出の関連因子は認められない。

(3) 臍帯脱出の発症時期は、妊娠 39 週 0 日 7 時 10 分頃であると考ええる。

3. 臨床経過に関する医学的評価 (2020 年 4 月改定の表現を使用)

1) 妊娠経過

妊娠中の管理は一般的である。

2) 分娩経過

(1) 妊娠 39 週 0 日の妊産婦からの電話連絡への対応(臍帯脱出感の訴えに対して、骨盤高位で安静、救急要請を指示)は一般的である。

(2) 臍帯脱出を確認した後の医師の対応(緊急帝王切開の決定、内診指で児頭を挙上)は一般的である。

(3) 帝王切開決定から 10 分後に児を娩出したことは適確である。

(4) 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。

3) 新生児経過

新生児蘇生(バック・マスク、チューブ・バックによる人工呼吸、気管挿管、胸骨圧迫)および重症新生児仮死のため高次医療機関 NICU に搬送したことは、いずれも一般的である。

4. 今後の産科医療の質の向上のために検討すべき事項

1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

なし。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

なし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

臍帯脱出は胎児を急速に低酸素状態に陥らせ、脳性麻痺発症の原因となっているが、臍帯脱出の原因は不明な点が多い現状がある。原因について事例を集積し、調査・研究を行うことが望まれる。

(2) 国・地方自治体に対して

なし。